

骨模型の作り方

作成材料

軽い紙粘土 (400g)、へちまたわし (お風呂用)、カッターナイフ、
接着剤、水性ニス (透明)、スプーン



ちまたわし

硬い骨 軽い紙粘土 (230g)

- ①紙粘土はよくこねる。
- ②紙粘土で骨の形を作る。(38cm(縦)×5cm(横)×4cm(高さ))
※骨模型は骨を半分にしたかまぼこのようなかたちにし、表面を表面、裏面を骨の中身を表すものにする。形は適当でよい



表 (骨の表面)



中 (骨の中身)



- ③指先で骨の表面全体を軽くなでて形を綺麗にする。
- ④2日間、乾燥させた後、水性ニスを塗る。(骨にツヤがでる。骨の強度が高まる)

骨粗鬆症の骨 軽い紙粘土 (170g)

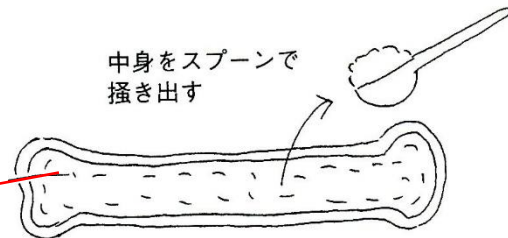
- ①紙粘土はよくこねる。
- ②紙粘土で骨の形を作る。(38cm(縦)×5cm(横)×4cm(高さ)) ※形は適当でよい



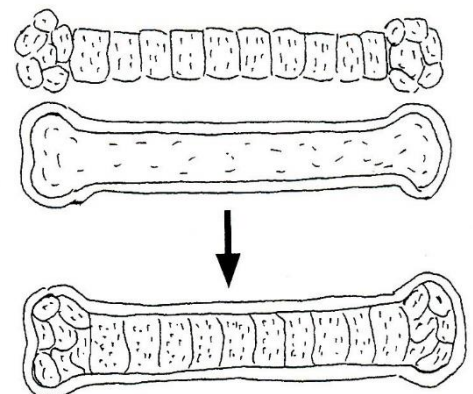
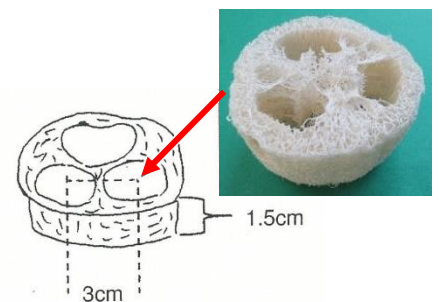
表 (骨の表面)

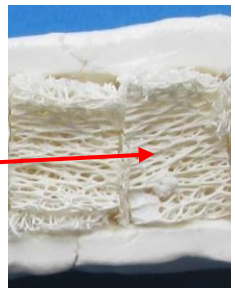


中 (骨の中身)



- ③骨の内側の部分をスプーンで3cm幅、1.5cmの深さまですくって掻き出す。
- ④2日間、乾燥させた後、水性ニスを塗る。(骨にツヤと強度が高まる)
- ⑤へちまを溝の形に合わせて1.5cm幅に輪切りにして3cm幅にカッターナイフで裁断する。
※へちまは硬いので、カッターナイフの取り扱いには注意をする。
- ⑥溝の形に合わせて、⑤で裁断したへちまを溝に埋め込み、溝と接着する部分を接着剤でとめる。



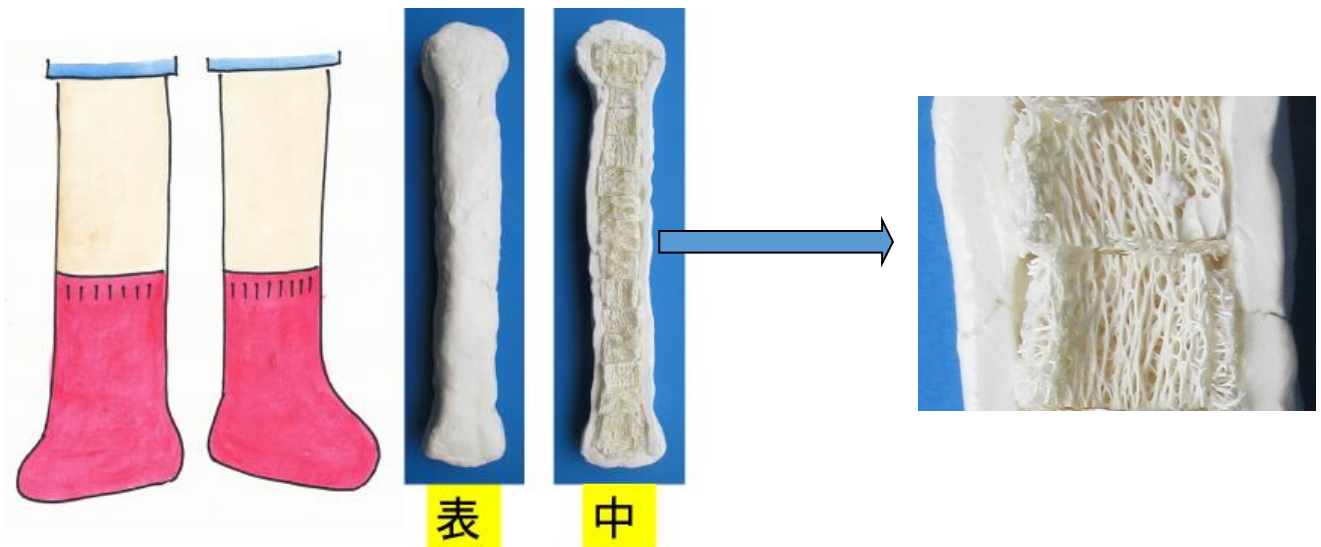


骨

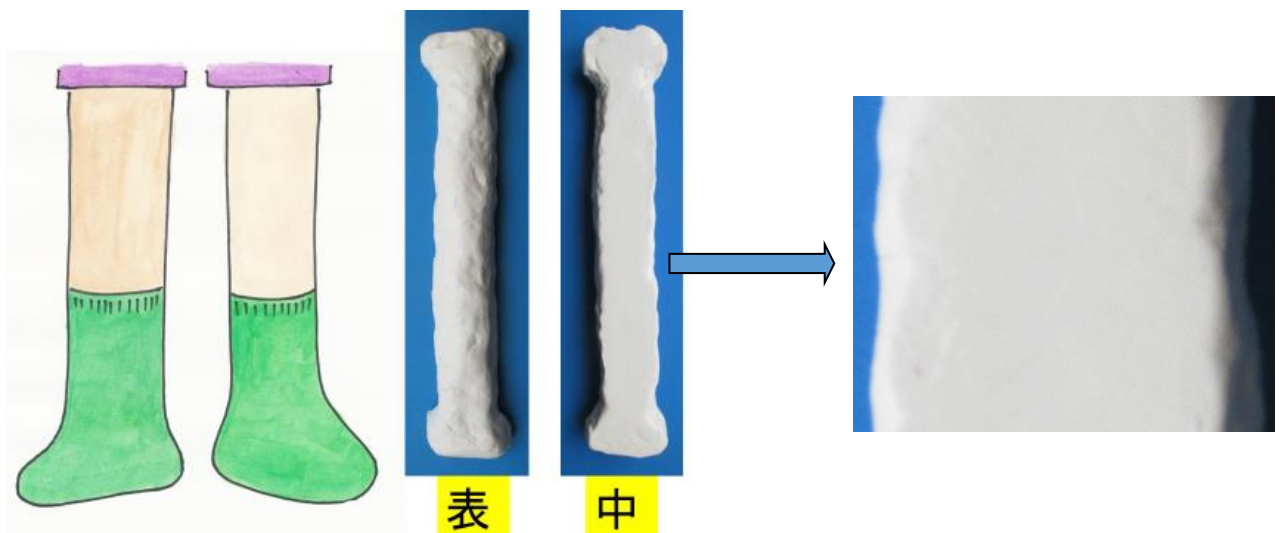
子どもたちにわかりやすくするため、あえて硬い骨の中身はすべて粘土で詰めてみました。より実際に近い骨模型を作りたいときは、スカスカな骨の方をベースに、スカスカな骨はへちま繊維をハサミ等で切ってさらに広げたり、間引くことで、よりリアルな「スカスカ感」が出せると思います。

指導方法

ほね細さん、ほね太さんの表の骨を見せた後、骨を裏返して骨の中を見せる



ほね細さんの骨（骨粗鬆症でスカスカの骨）



ほね太さんの骨（しっかり詰まった骨）